



Contents

巻頭言：「試み続けるということ」	矢部 敏昭	1
私の選んだこの1冊		
「だれが原子をみたか」江沢 洋著	藤本 高明	2
「カラー版インド・カレー紀行」辛島 昇著	小田 哲也	3
附属図書館ビジョン策定について	尾崎 文代	4
平成29年度からの図書購入方法の変更について		6
附属図書館ホームページをリニューアル		7
拡大読書機の利用及び大活字本の購入について		8
電子書籍（e-book）の購入		9
トピックス		10



「試み続けるということ」

矢部 敏昭

東日本大震災(2011.3.11)から6年が経ちました。当時、他国でそのニュースを知り、帰国後すぐに準備に取り掛かった『絵本の読み聞かせ番組』の配信は、昨年度末で約800番組になりました。

当時の大学執行部の理解と協力を得て、また附属小学校の司書の先生と保護者の方々のご理解をいただき、さらに毎週の番組録画・編集をする本学技術部の方々の支援で実現したものです。宮城県石巻市の全公立小学校を対象として始めたこの取り組みは、2年後に東松島市へ、3年後には女川町へと広がっていき、現在も続いています。

“未来をたくましく生きる子どもたちを思い、一人でも多くの子どもたちが前を向き、将来の夢を育むための一助となることを心から願った”のであります。また、このささやかな取り組みの背景には、以下の思いがありました。



絵本や童話は、子どもたちの心に夢を生み、子どもたちの言葉を磨き、子どもたちに多様な生き方を語ります。絵本や童話は、子どもたちに的確な判断を導きます。そして、絵本や童話は子どもたちに過去、現在、未来という時間の壁を越えて語り、さらに、鳥取、日本、世界という空間の壁を越えて語ります。



私たちは、子どもたちの世界観を広げ、人間関係を広げ、そして、多くの他者を通して自己理解へと導くことを、今も願い続けています。



単なる絵本や童話の録画から、子どもたちのためにと、画面に文字を入れる改善を施す本学技術部の皆さんをうれしく思います。この文字が日本語のみならず、いろいろな言語に翻訳され、画面の下に流れるならばどんなに素敵なことでしょう。

6年前に始まったこの『読み聞かせ』という小さな試みが、絵本や童話を容易に手にすることができない子どもたちの所へ届けられるならば、どんなにうれしいことでありましょう。また、読みたくても読むことができない国の子どもたちの所へ配信できるならば、この小さな試みは時間を超え、空間を超えることとなりましょう。



さて、私たちのこのささやかな取り組みの一方で、本学附属図書館では素敵な図書

館員と 21 名の学生による協働事業が展開されています。昨年度は新たな事業がいくつか生まれました。

- ①学生図書選書ワーキンググループ選書会
- ②ブックハンティング
- ③ビブリオバトル
- ④クイズラリー（新規）
- ⑤大学図書館学生協働交流シンポジウム
- ⑥読書ラリー（2年目）
- ⑦本の福袋（新規）

鳥取大学の湖山キャンパスに“学生の、学生の手による、学生のため”の風が吹き始めているように思われます。

（やべ としあき :

副学長（附属図書館長、IT担当）、
地域学部教授）

私の選んだこの一冊

江沢 洋（著）『だれが原子をみたか』（岩波書店）

藤本 高明

題の本を知ったのは、仕事を進めている過程で、「熱力学」や「統計力学」を勉強してみようと思ったことがきっかけでした。ほとんど予備知識がなかったため、インターネットで関連の書籍を探して、特に良く読まれていた田崎晴明氏の『統計力学Ⅰ、Ⅱ』（培風館 2014 年）を読み始めたところ、同書の参考文献に名著として挙げられていたのが表題の『だれが原子をみたか』です。読者として中学生や高校生を想定されているようで、内容は優しく記述されています（私はすぐに理解できない部分が多かったですが）。

原子や分子といったことは中学生でなら

うようですが、この短い単語に含まれた深淵な意味を理解するのはかなり困難なようです。そもそも、田崎氏が指摘しているように、私たちの日常生活で原子の存在を想像すること自体が難しいと思います。リチャード・ファインマンは『ファインマン物理学Ⅰ』（坪井忠二訳、岩波書店、2015 年）のなかで、

もしもいま何か大異変が起こって、科学的知識が全部なくなってしまう、たった一つの文章だけしか次の時代の生物に伝えられないということになったとしたら、最小の語数で最大の情報を与えるのはどんなことだろうか。

と問いかけ、それは「原子仮説」だと答えています。

原子の存在をめぐる論争の歴史は長く、二千年以上前にまで遡り、1908年のペランの実験で一応の終止符がうたれたとのこと。『だれが原子をみたか』ではこの長い歴史をたどりながら、「あなたは歴史のどの段階で原子の存在を信じますか」と問いかけています。私は想像力に乏しいので、本書の最後に載せられた原子のブラウン運動や硫黄原子の写真を見て初めて原子の存在を実感しました。

また本書の面白い特徴は、ブラウン運動の観察やトリチェリの実験など、「歴史の重要な曲がり角となった実験」が実際に再現され、その様子が詳細に記されていることです。教科書などでみる有名な実験ばかりで、つい結果だけを鵜呑みにしてしまいましたが、実際にやられている様子を見る限り

はかなりの試行錯誤が伺えます。また、ボイルの法則や気体の状態方程式などは、圧力や体積を計算する単なる公式として考えがちですが、これらがどのようにして導かれ、どのようにして原子論と結びつくのか、などが簡明に述べられています。

本書は、科学の長い歴史を知るというだけでも十分楽しめると同時に、科学に対する姿勢や考え方も学べると思います。

(ふじもと たかあき :
農学部准教授 附属図書館委員)

○図書館所蔵
中央図書館 シラバス全学共通課目
請求記号：429.1 Dar

私の選んだこの一冊

辛島 昇(著)『カラー版インド・カレー紀行』(岩波ジュニア新書)

小田 哲也

鳥取市内でもインドとその周辺の国々(以下、インド世界と書く)出身と思しき人々をしばしば見るようになった。偶然にも、我が鳥取はカレー県であることを標榜している。インド世界の人々が開く店舗を意識してかどうか、最近では美味しいカレー料理店が増えていると見た。こんなことを意識させてくれるインド世界の人々とは、どんな経歴の人たちであろうか? たまたま身近になった外国人を挙げたが、インド世界の人々でなくとも近くに住むようになった人々との付き合いを考えなくてはならな

い世の中である。そんな思いから、かなり前に読んだ本書のことを思い出した。

恥ずかしながら、小生が初めての自炊で作ったのはカレーライスである。思い当たる読者も少なくはなかろう。後日、個人的な興味で缶に入ったカレーの粉末から、あるいは原材料のスパイスからカレーを作ることがあった。しかし、カレー粉やスパイス自体には塩気や旨味はなく、直ちに思いどおりにはならない。こんな体験をすれば、カレーの固形ルーが出来るに至った歴史の奥深さを実感できる。著者の辛島氏によれ

ば、イギリス人が植民地の料理に馴染んでゆく過程で、手っ取り早く作れるよう発明したのがカレー粉(粉末)とのことである。ただし、本書はカレー粉の解説本ではない。現地での食事やレシピの紹介を通じて、文化論を展開することを目指しているようである。インドでの滞在経験とカラー写真を交えつつ解説しているというわけだ。インドといえば言わずと知れた階層社会で、菜食主義者が上位階層に多いことから垣間見ることができるそうである。穢れ(タタカ)の思想も強く、使い捨て用にバナナの葉っぱを食器に使うことがあるようである。インド文化の多様性は歴史性、地域性によって彩られていることも教えてくれる。例えば中東・中央アジア由来の肉の串焼きや、ピラフもインド料理に組込まれている。このように多様性がある一方で、スパイスを調合して味付けし、ミルク製品を用いる点にインド

文化の統一性があると結んでいる。

本書を読めば、来日しているインド世界の人々のことを考えさせられる。インド世界の人々以外にも多くの外国人が来日しているし、海外で労働、旅行する日本人も多い世の中である。さて、文化の異なる外国の人々と接触する機会があれば、何を考えればいいのか？ 内容は異なれ食事をする行為は共通点しており相互理解の助けになるであろう。本書は、そんなことを考えさせてくれる。

(おだ てつや : 大学院持続性社会創生
科学研究科 准教授 附属図書館委員)

○図書館所蔵

中央図書館 新書・文庫コーナー

請求記号 : 081 : IJS : 629

「鳥取大学附属図書館ビジョン」の策定について

尾崎 文代

昨年度より、鳥取大学附属図書館の理念と目標、具体的方策を「鳥取大学附属図書館ビジョン」としてとりまとめ策定する検討を重ねておりましたが、このたび、平成 28 年度第 3 回附属図書館委員会での承認を得て成立することとなりましたので、お知らせいたします。

本ビジョンは、ベースとなる理念に基づいて 4 つのカテゴリに分けた目標とそれを実現するための具体的方策を掲げたもので、主に第 3 期中期目標期間中の活動指針として図書館運営に活かしていきたいと考えています。

鳥取大学附属図書館ビジョン

理念

鳥取大学附属図書館は、鳥取大学の基本理念「知と実践の融合」を実現するために、教育・研究の支援を行う学術情報基盤拠点として、さらには地域社会に貢献する図書館としての役割を担い、その達成に必要な学術情報資源の整備と人材育成に努める。

目標と具体的方策

1. 教育支援

教員・学生との協働のもと、施設・利用支援など、学生の能動的学習を支援するための学修環境を整備する

○ラーニングコモンズによって協働学習を支援し、学術コミュニケーションを生み出す場を提供する。
○授業との連携によって情報検索やライティングの講習会を開催し、学生の学修効果を高める支援を行う。
○学生の参画による授業・展示・企画イベントを開催し、学生の視点を図書館運営に活かすことで図書館の活性化をはかる。

2. 研究支援

研究を推進するための電子的リソースを始めとする研究情報を定期的に提供するとともに、学内で創成される教育研究成果を「保存のホールド機能」を担う

○研究に必要な図書・雑誌等の蔵書、および、電子ジャーナル・電子書籍等のリソースを体系的に整備し、その利用環境を整える。
○学内で創成される教育研究成果を「鳥取大学研究成果リポジトリ」に登録し、発信・保存することで、次世代の学術情報へのオープン化を促進する。

3. 社会貢献

地域および全国の公共図書館、大学図書館その他の組織との積極的な連携協力を行い、社会に貢献する

○鳥取県内および全国の大学・公共図書館と相互に連携し、相互貸出・相互研修などの企画を通してネットワークを強化することで、幅広い利用者に対応し、図書館が地域社会の情報の結ぶるために協力する。
○鳥取県内の機関と連携し、地域社会に貢献し、密着連携を推進する情報の提供に努める。

4. 学術情報資源の整備と人材育成

教育・研究・社会連携に必要な学術情報資源を収集・整理・保存・提供し、その利用促進に努めるとともに、それを担う人材を育成する

○教育・研究・社会連携に必要な図書資料を収集・整理し、検索ツールを整備する。
○図書館員が教員・学生等と一体となり、多様な学術情報の共有と創出に貢献する。
○図書館員がこれまで培ってきた図書館の専門知識に加え、学術情報に関する新たな知識やスキルを習得し活用することで、大学図書館機能を拡大させる。

理念：

鳥取大学附属図書館は、鳥取大学の基本理念「知と実践の融合」を実現するために、教育・研究の支援を行う学術情報基盤拠点として、さらには地域社会に貢献する図書館としての役割を担い、その達成に必要な学術情報資源の整備と人材育成に努める。

目標と具体的方策：

1. 教育支援

教員・学生との協働のもと、施設・利用支援など、学生の能動的学修を支援するための学修環境を整備する。

○ラーニングコモンズによって協調学修を支援し、学術コミュニケーションを生み出す場を提供する。

○教員との連携によって情報検索やライティングの講習会を開催し、学生の学修効果を高める支援を行う。

○学生の参画による選書・展示・企画イベントを開催し、学生の視点を図書館運営に生かすことで図書館の活性化をはかる。

2. 研究支援

研究を推進するための電子リソースを始めとする研究情報を安定的に提供するとともに、学内で創成される教育研究成果発信・保存のポータル機能を担う。

○研究に必要な図書・雑誌等の蔵書、および、電子ジャーナル・電子書籍等のリソースを安定的に整備し、その利用環境を整える。

○学内で創成される教育研究成果を「鳥取大学研究成果リポジトリ」に登録し発信・保存することで、大学ブランド力の向上と学術情報のオープン化を促進する。

3. 社会貢献

地域および全国の公共図書館・大学図書館その他の組織との積極的な連携協力をを行い、社会に貢献する。

○鳥取県内および全国の大学・公共図書館と相互に連携し、相互貸出・相互研修その他の企画を通してネットワークを強化することで、幅広い利用者に貢献し、図書館が地域社会の情報の核となるために協力する。

○鳥取県内の機関と連携し、地域社会に貢献し産学連携を推進する情報の提供に努める。

4. 学術情報資源の整備と人材育成

教育・研究・社会連携に必要な学術情報資源を収集・整理・保存・提供し、その利用促進に努めるとともに、それらを担う人材を育成する。

○教育・研究・社会連携に必要な図書館資料を収集・整備し、検索ツールを整備する。

○図書館員が教員・学生等と一体となり、多様な学術情報の共有と創出に貢献する。

○図書館員がこれまで培ってきた図書館の専門知識に加え、学術情報に関する新たな知識やスキルを習得し活用することで、大学図書館機能を拡大させる。

(おざき ふみよ：図書館情報課長)

平成 29 年度からの図書購入方法の変更について

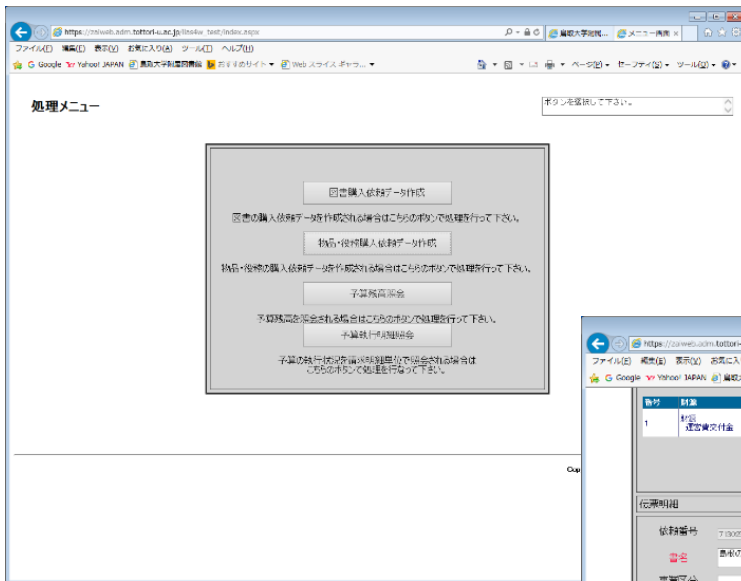
平成 29 年度からの図書購入方法は、購入予算の明確化や執行状況を迅速に反映させるため、「物品請求システム（見える会計）」での依頼に一元化することとなりました。

それに伴う変更点は下記のとおりです。

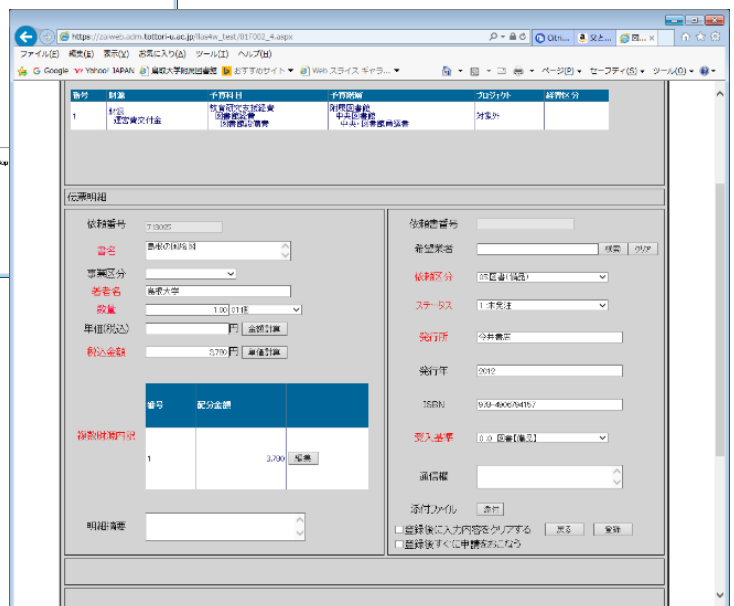
【変更点】

- 「物品請求システム（見える会計）」での一元化により、「図書館システム MyLibrary」からの図書購入依頼は廃止。
- 「物品請求システム」のカスタマイズを行い、「処理メニュー」に「図書購入依頼データ作成」ボタンを追加した。
- 入力項目も「書名」「著者名」「発行所」「発行年」等わかりやすく変更した。
- 平成 28 年度から使用している「鳥取大学における図書資料の受入基準（早見表）Ver2」を修正し、「平成 29 年度版」を作成。

※なお、「雑誌」の定期購読分につきましては、図書館ホームページから図書館専用の「国内雑誌購入申込書」（募集 12 月、随時）、「外国雑誌購入申込書」（募集 7 月）で依頼願います。



処理メニュー画面



図書依頼画面



附属図書館ホームページをリニューアル

附属図書館のWebサイトをリニューアルしました！。これまでのページデザインから大きな変更は加えないままに、より分かりやすく、使いやすいWebページを目指して、メインメニューをはじめ様々な点を改訂しました。また、これまで別々に存在していた中央図書館・医学図書館のWebサイトを統合し、鳥取大学附属図書館として統合したひとつのWebサイトとしました。以下では、主な変更点を中心に、リニューアルしたWebサイトの一部をご紹介します。

1. トップページの構成を変更しました

より附属図書館のサービスをご利用いただきやすいよう、メニューの項目や検索窓の表示方法を検討しました。ページ左側のメインメニューは、利用案内やWebサービスを中心とした構成に改め、附属図書館について知りたいことにすぐたどり着き、スムーズにサービスをご利用いただくことができました。

また、ページ中段の検索窓は、これまで蔵書検索(OPAC)が主に表示されており、書籍・論文総合検索(ディスカバリーサービスPrimo)はタブを切り替えなければ使用できなかったところ、どちらも常時表示していつでも使えるようにしたことで、お求めの情報をより探しやすくなりました。



附属図書館トップページ

2. 中央図書館・医学図書館それぞれの利用案内ページを作成しました

別々に存在していた各館のWebサイトを統合するのに合わせ、それぞれの館の利用案内ページ(トップページ)を新たに作成しました。各ページには、中央図書館・医学図書館の各利用方法・サービスのご案内をまとめ、どちらをご利用の方にも分かりやすいページにしました。また、文献データベースの利用が多い医学図書館ページでは、リンクを上部に配置して各データベースにアクセスしやすくするなど、みなさまのご利用方法に合わせたページ構成となっております。



中央図書館利用案内ページ



医学図書館利用案内ページ

これからも、ご利用のみなさまにとってより良い Web サイトとなりますよう、検討を重ねてまいりますので、今後とも附属図書館 Web サイトをどうぞよろしくお願ひいたします。

- 鳥取大学附属図書館：<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>
 - 中央図書館トップページ：<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/central.html>
 - 医学図書館トップページ：<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/medical.html>

拡大読書機の利用及び大活字本の購入について

障がい者差別解消法対応における学生支援の充実を目的として、中央図書館、医学図書館に拡大読書機（ハード及びポータブル）、筆談ボードを備え付けております。ご利用の際はカウンター職員まで申し出てください。

また、今年度中央図書館では、大活字本を 245 冊購入しましたのでご利用ください。



拡大読書機は、中央図書館 1 階 AV コーナー、医学図書館 1 階ブラウジングコーナーに設置しています。



拡大読書機{ポータブル}のご利用は、カウンターに申し出てください。(中央図書館・医学図書館)

大活字本コーナーは 1 階 AV コーナーの横書架に配架しています。(中央図書館)

電子書籍（e-book）の購入

電子書籍（Maruzen eBook Library、メディカルオンラインイーブックス）のトライアルを実施し、利用度の高い書籍を購入しました。また、Maruzen eBook Libraryの英語多読資料、シラバス関係図書等も合わせて購入しました。

○ Maruzen eBook Library 717タイトル

Maruzen eBook Libraryは、国内出版社が発行した学術書を中心に電子書籍を配信しています。

【購入電子書籍】

- ・「創薬科学入門（オーム社）」「依存症の科学（化学同人）」「依存（農とこころのプライマリケア）（シナジー）等、上位100タイトル
- ・鳥取大学シラバスに掲載された図書
- ・「地球の歩き方」シリーズ
- ・英語多読資料（ケンブリッジ、マクミランランゲージハウス）

ご利用 URL: <https://elib.maruzen.co.jp/>



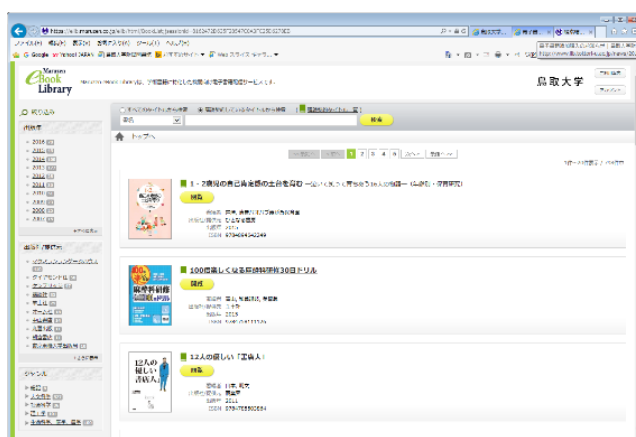
○ メディカルオンラインイーブックス（米子地区限定） 65タイトル

医療、医学に関連した書籍を中心に電子書籍を配信しています。この電子書籍利用は米子地区のみとなります。

【購入電子書籍】

- ・「周産期精神保健への誘い（メディカ出版）」
- 「心エコーハンドブック 心筋・心膜疾患（金芳堂）」
- 「ねころんで読める頭痛学（メディア出版）」等、上位65タイトル

ご利用 URL: <https://mol.medicalonline.jp/library/>



トピックス

「読書ラリー2016」(7月11日～11月30日)

読書ラリーは学生に専門分野や小説以外の本を読むきっかけをつくる企画です。今年で2回目の開催となった今年度のエントリー数は中央・医学図書館あわせて計40名。他者に「読みたい」と思わせる魅力的な本の紹介文を書いた学生へ送られるコメント賞には4名の学生が選出されました。受賞者の皆様おめでとうございます。



中央図書館	図書館長賞	『日本酒の科学』 和田美代子著	農学部4年
	学生選考賞	『スケッチは3分』 山田雅夫著	農学部2年
医学図書館	医学図書館長賞	『新幹線お掃除の天使たち:「世界一の現場力」はどう生まれたか?』 遠藤功著	医学部4年
	学生選考賞	『僕の死に方:エンディングダイアリー500日』 金子哲雄著	医学部2年



中央図書館表彰式

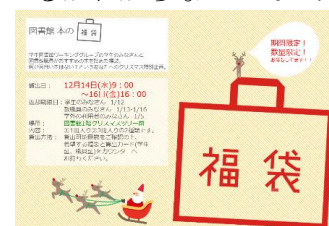


医学図書館表彰式

イベント「図書館 本の福袋」(12月14日～16日)(中央図書館)



学生図書館ワーキンググループの学生による発案で、初めて「本の福袋」企画を実施しました。福袋はおすすめ本1冊入りと3冊入りの2種類で、中身が見えないようラッピングをしました。「本の福袋」は3日間と短期間でしたが、3冊入りのものは全て、1冊入りもほとんどが貸出されました。実際に福袋を借りた方からは「手に取ったことのない本が入っていた」「何が入っているかわからないのでワクワクした」という声が、また福袋設置場所に足を止めてくださった方からも「おもしろい企画だ」といった声が聞かれ、大変賑やかなイベントとなりました。



附属図書館 Twitter・Facebook 好評稼働中！

附属図書館のサービスやイベントなど、各種活動の情報をより広くみなさまへお届けするため、各種 SNS を活用しております。一昨年度から公式 Twitter アカウントを稼働し、様々な情報を発信していましたが、これに加えて平成 28 年 12 月より、Facebook アカウントの試行運用を開始しました。

既に、展示・講習会などのお知らせから四季折々の図書館の景色まで、図書館にまつわる多種多様な情報を掲載しており、たくさんの「いいね！」やシェア、コメントなどをいただいております。これからも、附属図書館に興味を持っていただけるような、見ていて楽しい情報を発信してまいりますので、ぜひチェック・フォローしてみてください。



- Twitter : https://twitter.com/TottoriU_Lib (@TottoriU_Lib)
- Facebook : <https://www.facebook.com/TottoriUnivLib/> (@TottoriUnivLib)

鳥取大学附属図書館報 第129号 (2017年4月)

【編集・発行】鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

